



大徳寺の御影草子
新編 残草子
第百三十三号

阿婆の屍を大徳寺に
をかしき事

と相如江鳥の漢師松本佐兵衛が娘おとらり行瀬村
木田守次良方同村寅治が媒人々暗礼
を海を不日親類まつり寅治の家へ
泰王女房お糸の挨拶の自昇と思は

花嫁が大きな放屍を
是はく暗メそのお土お
よく出来ませうと口
親類内へ申訳多く入ふ
突て死にたるお安次良
何と申たお違ふしと
それがお糸の物でござん
死にたる是をたぐり
落命せりマ、屍ツで
よら屍お締りのあり

おとらとお糸の黙して
何よりのお土産お裏の
うら出次お云へ嫁の
笑もろくが残念と書か
大おごころお寅治が女房
二面當てがてら娘の首切り
おしが言えたら死なせ
安次良の寅治への三言訣
三人の命を垂るとい笑ふ
嫁さん方おが申と
讀り百三十三号ニ出



阿婆の屍
お忠次

阿婆の屍
お忠次